



社会福祉法人 東香会
しぜんの国保育園 small village

Jan. 2024



法人理念
いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 永続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

1月主題 年の始まり 心から湯気

2024年が始まりましたね。今年の元旦には胸が痛む始まりとなりました。何を言葉にしているのか、口にしたらいいのか考えれば考えるほど難しく感じています。

保育はじめの日、ひとりの男の子が会ってすぐ「新潟にいてすごく揺れて、机の下に隠れたんだ」と話をしてくれました。保護者の皆さんの中にも、ご親戚やお知り合いの方が被災されている方もいるかもしれません。

流れてくる情報に胸が痛む方、心が落ち着かない日々を過ごされている方もいると思います。過去の出来事に心が揺らぐことがあるかもしれません。そんな時はどうぞ、声をかけてください。話ができたらうれしいです。

また法人としても今どんなことができるか話をしているところです。保護者の皆さんも、何か情報がありましたら教えて頂けると、お知恵をお借りできると幸いです。

それにしても子どもたちの声を聞くとホッとします。年末年始、築田寺で顔を合わせた時うれしい気持ちになりました。しぜんの国で会えても、またとってもうれしい気持ちになりました。今年もいっぱい遊びましょね。大人も子どもも遊び心を持って、いっぱい笑えるように、私も情熱を持って誠心誠意努めていきます。

園長 齋藤美和

じむしょ 小窓 だより

新年明けましておめでとうございます。

朝、久々に会った0歳クラス子どもたちが少し照れくさそうにわたしに近付いてきてしっかりと目を見て「おはよう」というように手を差し伸ばしてくれたとき、例年では感じたことのない、何とも言えない気持ちでそっと抱きしめ返している自分がいました。

「あけましておめでとう」「今年もたくさん遊ぼうね」

毎年、お休みを経て久々に会う子どもたちと交わし合うこの新年の挨拶をととても楽しみにしてきましたが、今年のはじまりはその挨拶を交わし合うことがより感慨深いものとなりました。

新たな年を迎えた日、能登半島地震が発生し今なお計り知れない不安の中で眠れない日々を過ごされている被災地の方々、故郷のご家族やご親戚のことを思う方々、それぞれがそれぞれの場所で色々な思いを抱えていることと思います。現状を深く知らない中での言葉は安易な発言と思われることもあるかもしれませんが、被災された方々が1日も早くあたたかな安心できる場所で心穏やかな日々を取り戻せるよう心より願っています。

今日も子どもたちはいつもと変わらず笑ったり、泣いたり、怒ったり。そして、幼児組の子どもたちの中には今回の出来事でお家の方と話したことや感じたこと、経験したことを自分の言葉で伝えてくれる子どもたちもいました。今、身近で起きていることを自分の中で考えたり、言葉にして友達や私たちに伝えてくれる姿を見て気付かされることが多くありました。もちろん今回のことだけではありませんが、いつも大切なことは子どもたちが教えてくれます。私自身も無力さを感じながらも自分自身が今できることで行動に移して行くこと、そして今ある当たり前を当たり前と思わず、日々をより大切に過ごしていきたいと思いました。

今年も子どもたち、保護者の方とたくさん「言葉」と「思い」を交わし合っていきたいです。
本年もよろしくお願いいたします。

マネージャー 鈴木絵美



村の春夏秋冬 ～季節のたより・1月～

しぜんの国では毎年12月の餅つきで子どもたちと一緒についたお餅で鏡餅を作り、各お部屋にお供えしています。

お正月の間お供えしていた鏡餅を食べる行事を鏡開きと呼び、1年を幸せに過ごす力を授けてもらうという意味があります。

お供えしていたお餅を食べるときに刃物を使って切るのは切腹に通じて縁起が悪いという考えから包丁を使わず手や木槌で割り「開く」と言うようになりました。11日の鏡開きでは小さな木槌を使って子どもたちもやってみます。硬いお餅はなかなか割れませんがみんなで叩いていくうちに少しずつひびが入っていく様子を見るのも楽しいものです。

その日のおやつはお汁粉をいただきます。（保育園では中に入っているのは乳児は白玉、幼児は給食室で作ったお餅です）

丈夫な歯の持ち主は健康で長生きできることから固くなった鏡餅を食べることで歯の丈夫を祈る意味もあったそうです。ご家庭でお供えしていた鏡餅を開いた後は油で揚げてかき餅にするのも良いですね。

保育者 リレー エッセイ part 2

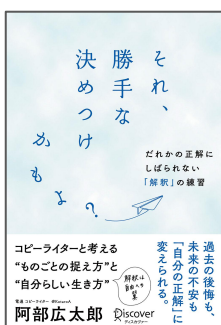
2022年から続いたリレーエッセイもついにゴールを迎え2周目に入ります。新しいテーマは《わたしの好きな言葉》本やマンガ、映画のセリフや歴史上の人物の言葉など保育者たちが大切にしている座右の銘について語っていきます。初回担当は1周目と同じく越丸です。

『事実』というものは存在しない。

存在するのは『解釈』だけ。

— フリードリヒ・ニーチェ

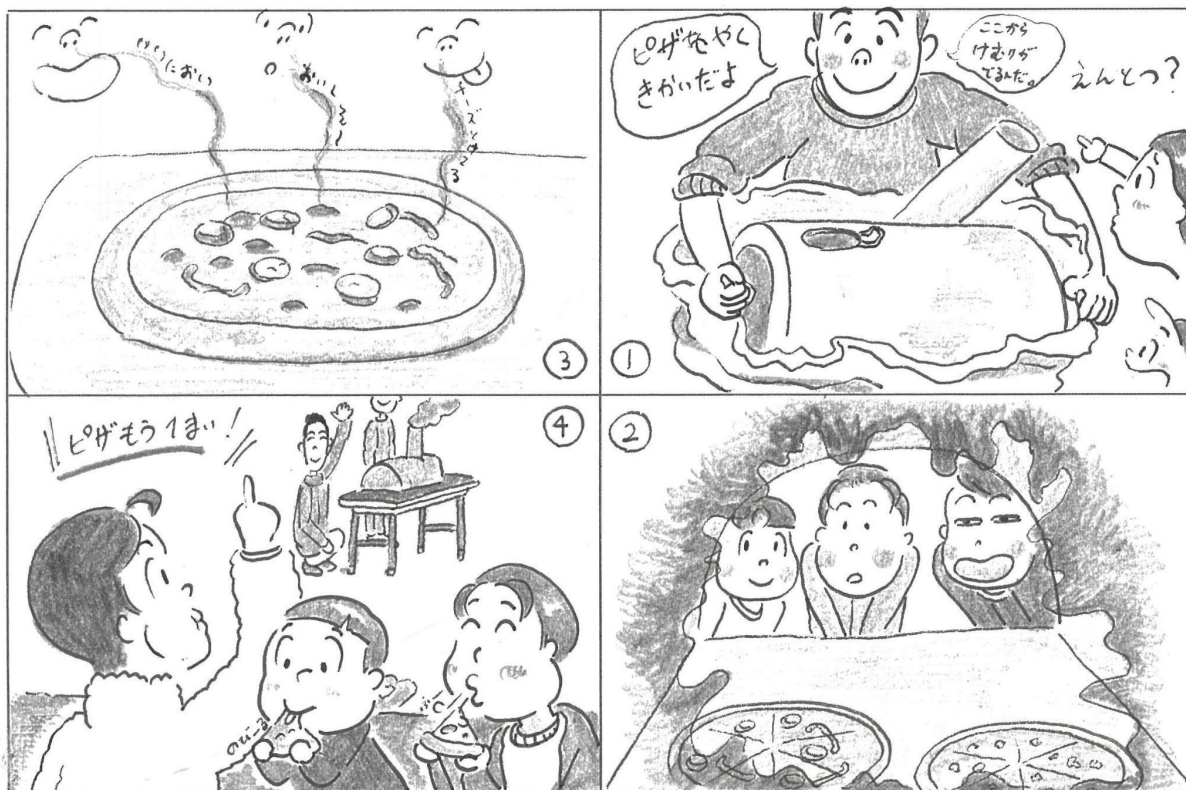
同じ出来事でも人が違えば解釈が異なり、人の数だけ解釈もある。ドイツの哲学者ニーチェの言葉です。あたかも事実のように語られるネット上の情報も『事実』ではなく誰かの『解釈』に過ぎません。子育てをしている中で「どうするのが正解だろう？」と悩んで焦りを感じることもありましたが。今日は学校を休みたいたいと言っているけどどうする？月曜になると頭やお腹が痛いって言うけど本当なのかな・・・「これが正解です」なんてクイズみたいに決まった答えが簡単に出るものではなくて、たくさん考えてたくさん話をしました。今では自分で好きなことや居心地のいい場所を見つけています。結局は私の方が考えを変えていく過程だったのだと思います。ニーチェの言葉は、変えられるのは相手ではなく自分の『解釈』だと言い換えられます。同じものでも横から見たら三角形で裏から見たら円形、触ってみた人は尖っていると言うかもしれない。同じ形だけれど割ってみたら中の色が違うかもしれない。こたつに寝転んでスマホばかり見てまた推し活かネットショッピングだと思ったら、1週間分の夕飯の献立を考えているところかもしれない。(どちらも真剣だからきっと同じ顔をしてるので、あ、私のことです)見方を変えてみることで新たな解釈が生まれます。阿部広太郎さんの『それ、勝手な決めつけかもよ？だれかの正解にしばられない「解釈」の練習』という本では、解釈は自分らしく生きるための自由への翼だと書かれています。親子関係に限らず人間関係を円滑にしてしなやかに楽に生きるヒントが見つかるかもしれません。



かみじま のんびり 漫画劇場

「あつあつピザたべよ！」

文・絵 かみじま たるひ



INFO

たるおじさんの紙しばい新作「どうぶつさん」 YouTubeにて公開！

<https://www.youtube.com/watch?v=EUfgsOWI6Y4>